

前奏 黙想	讃美歌 177	かみのいきよ
讃美歌 24	聖餐式	父のかみよ
祈禱	讃美歌 207	主イエスよ、こころ
信仰告白 使徒信条 566	献金	
聖書 ヨエル書 3:1~5	讃詠 547	いまささぐるそなえものを
使徒言行録 2:14~16	黙禱	
讃美歌 500	主の祈り 564	みたまなるきよきかみ
説教『ボチボチの器に聖霊注がれる』	頌栄 540	みめぐみあふるる
祈禱	祝禱	後奏

ガラヤヤ出自(使徒 2:7)の弟子たちが五旬祭で集まっていると(2:1)、激しい「風(ruah)」の音が響きわたり(2:2)、「炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった(2:3)」。するとどうだろう。「一同は聖霊に満たされ、“霊(ruah)”が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話だした(2:4)」。

聖霊は激しく降って弟子集団に語らせ、その姿は傍から見ればクダまく泥酔者であった(2:13)。そして帰郷した野次馬にも聖霊は静かに降り、母語(心の最奥部)で「神の偉大な業」を聞いた(2:8,11)。聖霊は激しく降り、あるいはまた静かに降る。ただ語る者には激しく、聞く者には静かに降る、と類型化しない方がいい。微かなピアニッシモに心動かされることもあれば、大音響で体感的にノッてしまう音楽もあるのだから。聖霊(風)の吹き方は実にさまざまで、パターンとしては捉え難い(ヨハネ 3:8)。

陶酔的な異言を発している集団の中から、ペトロと使徒がすつくと立ち上がり、明快な言葉で、しかも力強く堂々と語り出した(使徒 2:14~15)。おっ、こりやどうしたことか。十字架を目前にして打ちひしがれたペトロ(ルカ 22:62)と、逃げ出した使徒たちの、ガラリと変わった目の輝きに驚かされる。

聖書には記されていないが、この場面を想像するとペトロと使徒たちの目の輝きがありありと分る。そしてその目の輝きに、強く心打たれる。炎のような舌が一人ひとりに留まって異言し出したこと(使徒 2:3~4)、異言を各々の母語として深く受け取ったこと(2:7~8)。これらはまさに聖霊の徴であるが、使徒たちの目の輝きはいつそう聖霊の働きに思える。ペトロはヨエル書を引いて語った(2:17~21)。

「その後、わたしはすべての人にわが霊を注ぐ。あなたたちの息子や娘は預言し、老人は夢を見、若者は幻を見る。その日、わたしは、奴隷となっている男女にもわが霊を注ぐ(ヨエル 3:2~2)」。

神は「すべての人にわが霊を注ぐ」。家父長的なユダヤ社会では、息子や娘は父親の所有で権限などないが、父親以上の霊によって預言する。無力な老人や未熟な若者も、霊による希望のヴィジョンを見る。そればかりか、主人の道具である奴隷の男女にも聖霊は注がれる。字句通り「すべての人」に。泥酔しているだけ(使徒 2:13)と聖霊の業をあざける者にも、「その日」には神の霊が注がれるのか。

1960~70年代、時代潮流の担い手だった小田実は、「人間ボチボチやね」と言った。この大阪言葉には、権威権力を奉らず、庶民のえげつなさには鷹揚というニュアンスがある。人間ボチボチやね。このボチボチな人間に、神の霊が注がれる。自らが罪人であると恐れおののく信仰者の過剰な自我や悔い改めは立派だ、とは思。だけれども私たちは、そんなに「偉い人」だろうか。「すべての人」の中には偉い人もいようが、私自身は大多数のボチボチで、この私のまま、聖霊が注がれる。

聖霊を注がれる者は「主の御名を呼び、皆救われる(ヨエル 3:5,使徒 2:21)」。主の御名は一つだが、聖霊の注ぎはシャワーのような水撒きではない。「炎のような舌が一人一人の上にとどまり(2:3)」、「めいめいが生まれた故郷の言葉(心の最奥)で聞く(2:8)」。神は自ら手作りされた私という器と、私の人生をそれほどに見つめ、愛し、十字架で赦し、御自分の命たる聖霊を注がれる。このボチボチの器に。

木登りでズズッと滑り落ち 川で転んで濡れ鼠になる 父や母のまなざしの内で数多の冒険をした
今もあのまなざしの内にいる 父なる神 母なる聖霊 キリストなる兄貴とは一緒に冒険している

次主日 6/4 は役員会。5月の甲府での聖書研究会は予定がつかまって中止しました。5/30~31 教区総会、青柳均さんと牧師が出席します。牧師の動き 5/29, 県教誨師会の理事会と総会(甲府刑務所)。

礼拝堂・集会所の住所：408-0012 山梨県北杜市高根町箕輪 2265-3

連絡・問い合わせは牧師へ：408-0205 北杜市明野町浅尾新田 1324 TEL 0551-25-4008

メール komechan.olive@orange.zero.jp HPは「日本基督教団八ヶ岳教会」で検索して下さい。